目指すべき社会と今後の運動方針

Aiming society and
future movement policy

ひとづくり

背景・理想の姿

創立50周年の際に策定された「まちづくりグランドビジョン2009」において、現代の日本における倫理・道徳感の喪失、公共心の欠如、行きすぎた個人主義、社会からの孤立感や疎外感、国政や地方自治への無関心、国際的な感覚をもった人材の不足という問題意識から人づくりとして「倫理・道徳教育の推進」、「国や郷土に対する誇りや愛する心の醸成」、「国際性を持った人材の育成」という3つの方向性を示し、運動を展開してきました。現在の社会において、上記の問題は今も尚存在しており、引き続き継続的なアプローチが必要です。

また、これまでは堅調に人口が増加していた地域も一部では既に人口減が始まっており、鳥栖市においては、全体としても鳥栖市人口ビジョン（2015年9月）において、2035年をピークに人口が減少していくことが予測されています。このような変化の中で、まちづくりグランドビジョン2009の人づくりの運動の方向性を参照としつつ、2つの方向性において運動を進めていきます。

運動の方向性

①日本の心を育む

日本人が長い歴史の中で大切に育んできた伝統や文化、謙虚で礼儀正しく、他を慮る精神性や公共心を伝え、「日本の心」を持った〝真の日本人〟を育てます。

②地域・国を愛する

地域を愛する心、国を愛する心は身近なところから。家族はもとより、友達、地域の方々、学校、身の回りの人へ感謝する心を育み、次世代を担う子ども達が自分達の住み暮らす地域を大好きになれる、記憶に刻む運動を行います。

まちづくり

背景・理想の姿

かつては、戦後の中央集権型社会から脱却すべく地域主権型社会を目指した道州制議論が活発に行われてきました。2014年、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした地方創生事業が掲げられました。各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な取り組みを目指す中、私たちの地域においては、歴史、文化、教育、観光、交通、医療、スポーツなど様々な地域資源が存在しており、そのポテンシャルを活かした更なる発展が期待されています。現代においては、SNSの力によりたった1枚の写真がきっかけで世界中の人々と繋がることが出来ます。寂れたまちが活力を取り戻し、住み暮らす人々が誇れる地域へと大きな変貌を遂げた例も少なくありません。また、鳥栖市は日本語学校の存在や技能実習生の受け入れにより、人口当たりの外国人比率が佐賀県第1位のまちであり、今後更なる増加が見込まれており、他の地域にはない個性溢れるまち、そして、多様性のあるまちを創造することが必要です。

また、近年大きな災害が多発しています。【東日本大震災】、【熊本地震】などの大地震に加え、【平成29年7月九州北部豪雨】、【令和元年佐賀豪雨】などの局地的な豪雨による水害も多く発生しています。もはや安全な場所は存在せず、どの地域においても災害は起こる可能性があります。さらに、内閣府が想定する南海トラフを震源とする巨大地震が起きた場合、九州においても太平洋側を中心に津波による甚大な被害が起こることが想定されています。そして、それは30年以内に70%以上の確率で起こるとされています。この地域だからこそ九州、そして、日本のために我々ができること、それは「救済のまち」としての役割を果たすことです。

鳥栖市の268号機関車「ふろやん」

鳥栖市イメージキャラクター「とっとちゃん」

サガン鳥栖市マスコットキャラクター「ウィントスくん」

運動の方向性

①個性溢れるまち

地域資源を活かした活気ある地域の創造

私たちにとっては当たり前のことも他の地域から見ると、そして初めてこの地を訪れる人にとっては貴重な体験かもしれません。当たり前を見直し、地域の魅力を俯瞰的に捉えることで新たな価値を創出し、活気ある地域の創造を目指します。

②多様性のあるまち

外国人に優しいまち、外国人と共生できるまちの創造により生まれるグローバルネットワークから更なる地域の発展を目指します。

③九州のかなめとなるまちへ

災害における支援物資の収集・保管、ボランティア受付など、九州の陸路交通の要衝である地の利を生かした災害支援プラットフォームの構築により、九州における「救済のまち」を目指します。

はじめに

1949年、戦後の荒廃の中立ちあがった若き青年たちは「新日本の再建は我々青年の仕事である」として、日本の青年会議所運動をスタートさせました。それから10年後の1959年、「青年の力で新しい社会を！」という大きな希望を抱き、産声を上げた鳥栖青年会議所は本年、創立60年という節目の年を迎えます。青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現を目指して運動を行ってきました。これまでその時々において様々な社会問題が横たわる中、多くの先輩方の弛まぬ不断の努力の蓄積によって、今日の地域社会がつくられたと言っても過言ではありません。しかし、物質的には豊かになったといわれる現在において、今の社会は明るい豊かな社会であると言えるでしょうか。未来を生きる子ども達が夢を描くことができる明るい希望に満ちた社会、全ての人々が物心両面での豊かさを感じることができる社会であると言えるでしょうか。私たちが住み暮らす地域や国、世界、そして地球上には様々な問題が山積しています。現代における様々な問題に対し、解決策を見出し、よりよい社会を創造し、次の世代へ受け渡すこと、それは我々責任世代に課せられた使命です。2015年9月、国連において、2030年までの持続可能な17の開発目標（Sustainable Development Goals：「SDGs」）が採択されました。国においても、SDGsを通じて豊かで活力ある未来を創るとしてその活動が推進されています。これまで鳥栖市をはじめとする佐賀県東部地域は九州の陸路交通の要衝として発展を遂げてきました。持続的な発展を目指すと共に、鳥栖市を中心として更なる外国人の増加が見込まれる地域において、多様性を認める地域社会の実現が必要です。それはSDGsが目指す誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会とも合致しており、そのための運動を継続することが、鳥栖青年会議所が目指す明るい豊かな社会の実現に繋がるものと確信しています。

制作責任者	2019年度　理事長　　松雪　宏昭 鳥栖JCみらい会議　議長　松本　孝充
発　行　日	令和元年9月21日
発行責任者	2019年度　一般社団法人　鳥栖青年会議所
発　行　所	一般社団法人　鳥栖青年会議所
デザイン・印刷	Ars.Artis

JCI

一般社団法人 鳥栖青年会議所

〒841-0051佐賀県鳥栖市元町1380-5
TEL 0942-82-7275　FAX 0942-82-3747
mail/info@tosu-jc.or.jp　http://www.tosu-jc.or.jp/

JCI

一般社団法人

鳥栖青年会議所

運動指針 2019

鳥栖 JC 運動宣言 2019

われわれ鳥栖JCは日本の心を育み、
地域・国を愛するひとを創り、
九州のかなめとして、
世界へ誇れるまちの創造を目指し、
運動することを宣言する。